

内容項目 4 -
約束や社会のきまりを守り、公徳心を持つ。

資料の分析

- 1 .雨が激しく降る日、バスの停留所では、バスを待つ人たちが、近くの軒下で並んでいる。よし子とお母さんもその後ろについた。
- 2 .バスがやってくるのをいち早く見つけたよし子は、他の人たちを無視して、いちばんにバスに乗り込もうとする。それを、母親に止められる。
- 3 .よし子はじりじりした気持ちで列に並び、ようやくバスに乗り込む。
- 4 .バスの中では、いつも優しい母親が、硬い表情でよし子を無視する。よし子は、自分のしたことを考え始める。

児童生徒の実態

- ・ 学校や社会には様々なきまりがある。ほとんどの子どもたちはだいたいきまりを守って生活しており、きまりを守らない子に対しても注意をすることができる。きまりを守って生活しなければならないということはわかっている。
- ・ 大きな規則やぶりはないが、やってはいけないとわかっているにもかかわらず、教室の中を走ったり、学校に不要物を持ってきたりするなど、自分ぐらいならとかこれぐらいならやってもいいだろうという意識の子が多い。
- ・ きまりや規則を守るのは、守らないと先生や友達に注意されるから、叱られるからやらないという意識が多い。

価値の分析

社会生活を円滑に営むためには、きまりや規則を守らなくてはならない。きまりや規則が守られるべきことは、だれもが分かっている。しかし、なぜかと問われれば、他律的な考え、利己的な考えなど、様々な意見がでてくる。

きまりや規則の意義と役割について理解できるようにするとともに、そのことを通して自分を省み、人間としての自分自身の在り方を考えられるようにすることが大切である。

その問いかけによって、きまりや規則を守ろうとしても守れないことがある人間の弱さとともに、それを乗り越えていこうとする人間のよさを自覚することができるのである。

ねらい

雨の中、バス停から少し離れた軒下で順番に並んでいた人たちを追い抜いて一番に並んでしまい、母に引き戻されたよし子。母のいつもと違う怒った様子から、自分のしたことが何かいけなかったのではないかと考え始めたよし子の気持ちを考えることで、社会には形には見えにくい規則や決まりがあることを知り、人のことを考えてマナーを守って行動しようとする態度を養う。

展開の構想

- ・ よし子のいらいらした気持ちを想像させる。
- ・ 早くバスに乗れず残念に思う気持ちとともに、母の態度から、自分の行動を疑問に思っているよし子の気持ちを考えさせる。
- ・ 不満な気持ちをもち続けているよし子に自分の心情を重ね合わせて考えさせる。
- ・ よし子にきまりを守ることの大切さを教えようとしている母の気持ちに気づかせる。
- ・ 母のようすを見て、自分の行動について考え始めたよし子に共感させる。
- ・ 自分たちの生活を振り返り、経験を想起させるだけでなく、そのときの気持ちはどうだったかまで考えさせ、きまりを守ることの大切さに気づかせる。

基本発問〔中心発問〕

よし子は、どんな気持ちでバスを待っていたのでしょうか。

お母さんに連れて行かれたとき、よし子はどう思ったのでしょうか。

お母さんの顔を見上げたとき、よし子はどんな気持ちだったのでしょうか。

バスの中で、いつもとちがったお母さんの顔を見ていたよし子は、どんなことを考えた始めたのでしょうか。

主題構成表

主題名 心の中のきまり（公德心） 4年3組 資料名 雨のバス停留所で